落穂集

内閣文庫
番號 和 16383
冊數 22 (3)
函號 170 78

国立公文書館
National Archives of Japan

一天正十年ゟ北条氏政武田信勝ニ背き
織田信長の旗下ニ成り信長信忠父子甲信
地方ヲ攻撃して武田家を追討仕候ニ付
近国の諸大名ハ信長ニ降参仕候ハ
三万六千余ヲ率して御向ひ被成関東勢ハ北条氏
政氏直父子二万騎りの勢ニて碓氷峠ハ
今ハ北条氏ハ長道三十の余ニ人数を押入本国ハ
徳田信忠ハ六万余ヲ率して向信長ハ
勢ヲ率して出馬ニ成り押ハ
信力ハ北条氏政ハ旗下ニ成り

浅草文庫

仕り信長へ志を通し濃州岩村の城代河尻肥後守軍
勢を国中へ引入信忠卿を岐阜の城より信忠へ引渡し
是ハ更なり武田家の諸親類ニ至るまて勝頼を背
織田家へ降参する者共多く有ニ依之
家康公ハ二月十八日浜松を御進発有て駿州
田中の城へ押寄給ふ処に城主芦田右衛門佐和睦を
乞奉るに依て大久保七郎右衛門を城を受取らせ
玉ひ夫より同国用宗の城へ押寄玉ふ処に城
将も朝比奈駿河守降参して城を渡しける同
国江尻の城にハ穴山陸奥守入道梅雪斎籠

乃勢を以橋の龍を打を御旗本長坂血鑓九郎を
城中へ差遣し和睦有へき旨仰遣れし処ニ梅雪も
領掌して同心して御味方と成則穴山か城を明
渡し奉るに依て駿河一国ハ悉く武田方の城と云ハ残
御手ニ入るニ及ひ三月五日駿府を御出馬有て梅雪
穴山梅雪を御先手として文殊堂市川口より甲
甲府へ入給ふ同十一日ニ甲府へ御着陣有て信忠ニ
御対面有る此時ニハ武田勝頼ハ軍勢を引て
府を去て落行く甲府の者共も皆散々ニ十方へ失せ
新府を去て信州の上田の城主真田安房守方へ

信玄と弥平ニ郎へ亦方より桐紋をハ被下なりしかハ頭
令を以て御紋を下され候に付信頼乃紋ハ桐也
下ニ被成候ハヽ可然と云ハ長坂釣閑斎我等
御為存じ候得共河乃字ハ穢れハ稗ニ中
さ候ハヽ真田方ハ下り桐紋内小山田ハ武
田家代々花菱を用来りて是を用ひ候へとありしかハ
ある頼もん事門ハ藤の丸と云処に中山田一向宗
仕置ハ是眞乃云ともし治施と申家業の寄付申
中より申候支へ有し天目山乃棲田村ニ出て御家
也云御頼の家ハ度量ニ若と云極め付滝川九送

川麁肥前守とある者ハ東山国にて押入所々ニ信頼信
父子を召之首を甲府へ送られハ信忠公岩原
御出陣の節平沢を以て待ちに於て信長ハ公を世に許
処二く信長ハ信頼乃首を座ニ置て近臣親子信玄
以来種々ひ出窓手と云ふ之悪口ニ於而被首
家康ハ是をあ見て氣毒に思召ニ何奴僅乃者
家康公乃御陣所ハ持来りし処に信頼乃首を乞ざ
てしに云置て入れ候ニ付首取乃御家抜て御覧
ニ成遊信長ハ御返答に其御手寄ニ取入乃便者中候を
被召捕ある是より晒して被首を京都へ御下仕候上申

こゝに付御返答、とかく被信長ハ上様より御帰有
然ハ此間ニ関東御分国ノ仕置ニ付、御後見一人
家康公へ仰付被申候、其ノ後御頼有
して東海道を押上り、御中ニ付駿遠参三ヶ
国ノ御領分ニ付て、御礼ニ被申候ニ付テ、穴山殿
甲斐ノ穏便ニ付ノ義ハ、小笠原ニ仕置、酒井ハ両人へ
御附信長公へ御帰参有ところ、以後六月初
家康公ヘモ御返礼ト御見物ニ穴山梅雪ト御同
道にて安土へ御越に付、是も信長公より待ノ儀
以て有ところ、種々御馳走に同月二日摘京都を御立安

土を御出候、御堺へ御遊覧之時、彼浦にて御覧ありし所
御下向遊、南北之浦ノ商人にも有かた、京都の持傳へ
又、堺ニテ御寄合して、御馳走に集まり、日中之人々ともに
被申ところ、然るに其日御逗留ありて、六月二日丹波国
亀山之城主明智日向守光秀ハ、羽柴筑前守秀
吉を毛利家と対陣之陽州へ加勢として中国へ
下向として彼家ノ人数を催し、亀山乃城を出て桂川
を渡り此所より丹波之御道へ乃右ニ手勢を信長の
宿寺本能寺へ取懸り、急ニ攻撃す、依付爾責給へ
大きに闘争して防き戦ふといへとも不相叶、信長

四十の歳にして生害有。対州宗義智公の二男新宮
相模守と称し信忠と云へる人也。父に先立て逝去
之由　家康公より御ゆるしの有て
明智と沙汰果て江州坂本城攻しの日石田治部少輔
御入被成候ハ、ゆるしの日石田治部少輔
と不相和し不平の義有れ共
上方御思召の処に別所瀬田の城主山岡景佐
して達て申しに付山岡景佐有と雖
敵へと云通ず落城御滅亡遂
御退治被成遂しの御内に被成
御博奕有之被成

冬之三月の御終に沙汰有て遠江井伊侍従直政
上洛と云通ず江戸家忠源十郎と
尾張の清洲城へ被遣
家康公へ使者に
と一統に及ぶ御利と沙汰
之方御手内に成候間
不及ゆしの義と御先の元の義と清洲城
より石田治部少輔の謀反に於て清須城の
分と成ぬ
一番に滝川一益に

甲州より国を以て岡殿把(?)あるよしの義へ入しに信長
家康公へ仰せけれは御中方の義は後河(?)へ取(?)候て御腹立の
義にしてハ岡殿を御口(?)と仰られほとなくて自害
被致候ける義に付て信長様死しまけるに付て肥前
守方と申し下しと申合(?)候て百姓と甲府へ出
肥前守は筆の相談あるよし承り候へ出る方え作合
岡殿方へ(?)越し肥前守儀には　家康公御意
意く此申し達へ武庭(?)男を持て中(?)付て百姓の寝首
とらせんこと能(?)て右の家来大工(?)にいさ(?)として
百姓の家へ寄集り百人ほど殺(?)しけれは(?)そて

御内あり候義にてや右御他之義の事ハ岡殿宅へ
押込切死にし候へ(?)殿しけれは右三人のうち九一岡殿を
手津(?)ては岩橋(?)と越也と申し武田方の浪人甚(?)人二人と申
浪人の家へ走り集りて候ことと相談にて家を強(?)く
一揆を起し岡殿の家を取囲み其(?)進攻候て岡殿の
衆しめ候平(?)に差(?)く討殺し中にも肥前守ハ
甲府の内にて岡殿の中三井十兵衛是へ付(?)…
人にて候節(?)…源(?)滑(?)へ御注進申しけるに付
家康公甚(?)御感(?)…
成人(?)…

甲州の方へ向ひ出でたる滝川左近将監一益を上
州厩橋に城を拵へ信長様死の分別仕すべく
大こう勢をこめ上洛して関東をも抑へ方々
の浦々の国々を攻め取り又は出張
あるべきの由新田の由良信濃守と申す武
州忍の成田の方へ申し進ぜられ武田
父子三人滅亡と聞き及び滝川
流れの有る様に小牧山へ大軍を寄せ厩橋
城へ引き上げ小田原へ向かはせられ
いとまを乞はれ給ひて跡へ厩橋の城へ

引取り信濃国へ帰り給ひて上方の様子
を対面西上野武田隠の者共多く小牧山へ
持参仕り候ひ後北条氏西上野の人数と合せ四万の
軍勢にて沼田へ信州と申し信州へ働入り沼田真田と申
して信州侍と悪く味方と成り
申して中潟へ出張の処に敵方の大将勝頼
信州へ馬を乗り善光寺を過ぎて遅れ申し薩摩川
にて対陣仕候ひ家老一門家老の面々民部へ
対面申し上小田原へ参り申候ひ寄の申分仕候
家老に於て家来の衆対陣とは何と申事に

とも
家康
押入
家康
より
家
品三
ゆる
仮
ぐ
家康公ハ朝比奈弥太郎を御使ニて小栗忠政と親
方へ御書を以て江州蒲生郡へ百姓
を寄の義ハ
西之野武田の高屋と相深之野一回ハ一番ニ小栗
より文配あ
向後和睦と相成ニ来春より親父忠政ハ隠居
わ
嫁せ
他事
始め

終に極りしに御城より武田か意を待て出し候間
早速小田原へ申遣し氏政も又返答に沙汰有りて出張等
新府の御陣所へ打越て申上けるは氏親方より返答
申し氏政返状の侍来り新府殿并小田原へ申す処
氏政にも同心に及はれ候は決戦の御手当も被為在候事
使者新府小田原へ遣し候て因に漸く寒気乱れ
越候に付山々より陣取たる信玄方より待候て小屋
書陣を拵へ冬を越し候有   家康公御往進
しみの方に御陣立を遊はされ或日早天に小栗又一の先
手大道寺駿河陣所へ朝比奈弥太郎馬を乗掛

来るへきと申掛け候へ共陣所を出す候 家康公より使者を
以て問はれけるは其方に付駿河陣所へ呼入候事は小田原
駿河に向ひ 家康公御申候は先頃和平の義申候
小田原方と氏一致にて此方より氏遠江守と申陣所を取候との
返答に付穀田桐将承り候所先つ一義出来候との世間の風説
ては陣中にも小笠原備前陣に相尋候へは和睦可
有との返答ハ実義にあらすと定て何事も延引の為
乃謀計にて候へし 時分柄寒節にても有之に付人馬の
掛引も難成候へハ今明中に一戦を遂け候へしとの義
申候付而使者に及はれ候へく候に付駿河守驚き入

申けるハ　家康公乃御後を見候ハヽ内藤の後の事にて候
御先の武田信玄に於てハ家康公御近所申
不案内ハ此衆有道に在候ハヽ諸軍乃道ある也然るに大
須賀守ハ内藤候ふ間乃陣ハ遠ミ兵部少輔をまして
之を兵とも　家康公ハ仰せ付けく候先
陣乃先中へ申遣しけるハ此度合戦に付ても高天神へ
取物を見て殿中ヘハ成瀬を使にて討捕の方を
とあて取て急くと申けれハ猶の様子を後河守ハ武直の
御陣へハ酒井左衛門尉を遣しけるハ武田と称す
行き分ハ大に相模ともに後ち捨てハ是候にハ新府の

御陣へ参りけれハ何分の事をも相談ありて候へ共ミ
相談ハ一決して諸人の為に駿河守指して大道寺孫九郎
と成瀬守同道致し朝比奈小田原右衛門を申上候
て新府辺の道にて此所へ御出来候処に大久保忠世
石井豊後守殿三人ハ其外の上乃山にて押して御着
候酒井左衛門尉石川伯耆守本多平八郎並に其外の組衆
方ハ小栗又市上野介元安藤彦四郎元久ハ平岩や
まれ物見として合戦を持ちて候を押して高天神乃
中と小栗の二氏親忠勘ヒと同じくして遠江へ来りて
なお乃候ところ使と施して事の仕様を申届候後ハ之

ましまして夜を押寄候て三人先より新府の御陣所へ宗
徒ニ使者御本陣へ来りて石川伯耆守ニ申けるは
夜中ニ早速美濃守を以て申候ニ付氏親存出シ遠方
ニ候故御和睦の御請延引の段申上候と申上之不調
候の由御迷惑仕候旨申上候ハ　家康公此方
遠近の様子の間違ハあつても不叶ことなれは御機嫌
能御返答ニ遊はされ候ニハ一紙ニても不苦候乃間御花押
而ハ我も人数をも入へし（令）下申由ニ候也保五郎の義とも御
座候御同意ニ候付テ酒井美濃守の年寄共ハ小笠原
北条家と申ハ親父氏康乃旨を以て駿河今川義元乃

方へ浪人として罷越候処　家康公ニも御味方候と
申奉り駿河守ヶ崎と申所ニて御座候ニ付
親父の氏より御出合之義被為入候ニ付て和睦之義被仰出
御雑談の上ニ美濃守保五郎両人御講談の料理
とて申立ニ美濃守の家御肝煎して酒肴ハ元高陣へ承
其後ニハ浪人まても不及義ニ付保五郎と取遣り
御座候と御座候ニ付美濃守義ハ御元ニて御座候
申候乃義ハ我等よりも見事仕かまつる様子ニ付氏政
もは相叶申ニ付まは御覧被成候ニ付ても御座候
と御自分様ニて保五郎を申して並方へ酒井

佐々村世羅小次郎と之見へて其やうに二百騎ばかり今ハ見え
またん咲者ともも及ふ間御馴て其かりの味方とも度々が義り
こそ候けれ跪人ともも及ひ聞え候ほどに大なる道を
とよ思ひ候ても御屋かく民部よりかつ紅ひの細苔を
とり拂陣て延び候も間小田原之衆勝の人数ハ渡辺
某とが後ハ遊でぞいかかし存中之民親ハ存候わるとも御をも
梶原中年ある高名ありとも存候西人を之ぢからは民部をいかし
澄人御方の衆ハ来候の三月より西人ハ御所ニ遊ばされ候
春下旬の衆ハ当国にお大候のかりし真の共れは御方の衆を存
何方にも及び速にもとあるのかる御馬勝遊びて洛にて元忠

御陣落候ハ当国とてもいまだ其のまゝにて御手に入候へと
ゆるしても宮の社も候ハ外より速に下されし当年ハ宮の社も間
新に寄付し存速中にも御祈の為に御社の社前の籠ニ参り速に
其中の僧も重て其後ハ人よりハ死去の病にもなく候
申してハ不作の上様の御事乃人為にもかくハ其の上にハ外に
其社別当思案致し見しかとも何とも存れ候ても元忠外に
其時節とそハ殊寄当社御速二十騎
宗徳康云ハ御家来遠見共の社別当ども是ハ御社
御の修理事とも当社の根方へまかり当社の社人とも
其後に当社乃社家共の者ハ関東にてよ見候もとも多く

持参かれハ少弐殿ハ参ら[illegible]と謀書ハ段々ニ
付て[illegible]ハ知ス[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
義[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
回[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

一天正十二年ニ龍造寺隆信ハ[illegible]

御井多信雅二人の者秀吉へ之寄之逆意に仕上ケ之方
信雅ニ〈若輩〉なれども有りてくれ信雅ニ後見致わるべ
石三人の者ども諸列長盛の御中ニ於て成敗致
付信雅ニて秀吉ニ中悪くなり成尾ヲ〈後向
して御国ニ〈引たりやと申ハ信長ハ
元亨ニ新り意知いたし〈信大名の方へ信雅ニ加
勢の義とたれ〈頼ニ〈いたるハ信ひ所て
雅ニ人国の族ニ対公儀大事ニ成ハ
家康ニ乃御救ひ頼ニ不ル〈ハとなて記
ニ乃頼ニ付　家康公御ハ秀吉公天下ハ

拾ニ勢ひあるとい〈ハ信長の厚恩ハ
ニとハ天下とこそ奪ひ信雅事ハ正〈ニ信
ニ乃と二切ハ攻ニて自ハ
秀事ハ〈て信ニ成厚恩ニ新りたると云ハ
されとも自ハ〈合ニ用ハ成ニ
子息信雅ニ〈敗〈ニ
ハよ〈ハ秀吉ハ勢ニ
又ハ〈て進ル間ハ
ニ逆ニ文ニ尾ハ御
後日ハ四ニ四乃御勢ニ信濃ハ

数度くさ三年の中本末もとくしかとさ板倉伯耆の神へ
うして信濃所ハ大方如陣をとく小笠氏頭ハ義の迎さ
御縁有よりハ親父武政の養嫁と御乳を遊後
江ハ四郎くよ御婿と張られ三ヶ国の
御為手長ともとも又文よりハ江州ハ信長ハ後
ハ御人数の引方多くハ御くさ者ハ本の御婿
と成御如陣江逃ける也

一 元亀元年大山の城より信雄ハ中の為ハ
義を処高ハ三ハ国四郎ハ城の者より引なる
と為手と御しひ秀吉ハ味方として池田信今月

十三日大山へ神寄を所所より城と成られ大山の城へ入り
代り羽秀吉方の人と成と敵と結ける有
家康ハ江州ハ信長ハ厚恩の者ハ信入ハ不安ハ不面ハ
なれハ行とて陣入と沙対面ハ為として小牧ハ所自
然御馬と成ハ処より信入ハ早速大山ハ城へ入信之
十六日より大山表へ御人数と成向処より羽里ハ指林
来武ハ和守尾張ハ陣取ハ御味方ハ物へ
向て鉄砲と放しかけ奥平九八郎ハ酒井雅楽ハ平忠次
世二ヶ口ハ鉄砲と打合ハ所ハ成敗
守り備ハ後武ハ方と見ハ一騎宗ハ処ハ体

京に後陣をもて是を打ちあつまる
処を奥平九八郎ゑの余り其外
新しく武蔵守三ゑの余り其外
うゑの方にて相生の川を渡
大山道所まで追ひ付き
父子迄一合戦有て敵を没
勢押寄るを見て大山城
人数兵粮無之故家康父子
家康公御使を以て
早く勢を川揚て
面を追ひ
一長氏秀吉より大阪へ出勢
遣れ一揆
家康公信雄公志摩へ
付き
稲葉城主中村式部少輔一
一揆退散いたし
百余人軍勢を率し大阪
取て秀吉のもと小牧山
勢乃陣場を
家康公を迎て小牧山を

御陣取を遂て御秀吉公乃軍勢ハ尾州樂田迄
陣を取浦小牧山へ向て去程と築き掘とり付て城中
知り行向を渡りよりて一戦を遂て以ての曲事たる
由を告げ陣へ引き取ること
家康公よりハ信雄へと御同陣を遂饗応清水外山村
多津村より取出し城と御築を致中豊臣乃通路乃
為として小牧乃古城と御取立遂て秀吉豊臣
甲乙穴山元種仮書陣をなし給ひ
一四月廿日池田信入太山乃城へ来り秀吉へ
より信雄へ
手を七ツ打乃由を申ス事ハ御陣より
家康公乃ハ敵と成事を御行ひ給ふ事ハ
果世間を考へ給ふ
家康公ハ敵と成ハ中信雄三ヶ国乃城くまなく人数を籠され
候ことを聞ハ中と様子を御覧あり
御陣より来りと存ハ向西方へ
不意より人数を家康国境乃城へハ書を以ハ
家康より御書乃儀ハ必定より
之儀を以て小牧の陣へ御参り信雄へ
元を知ハ人ハ
後さ者後向の事

是と等しく東西を従横人を命じ人を指し人を指し相戦
ふ小三郎信長の家臣秀吉と名乗り付き合戦の方の味方
軍勢とも義信の味と敵対して樂田と戦ふ
猶人数を陣をなす信長上の口より分け合戦已の
刻よりして篠原右衛門一番に合戦
後向て引とて後ろ方へ篠原右衛門の仕人共方へ逃
家康公御家中なる付小牧より酒井左衛門尉
平三殿右衛門佐春号酒井与四郎と御家中
武佐御
大浦の家臣の小野田三郎兵衛尉井伊万代

六人合て四千弐百余の勢と成て連合の内の味方
小牧山と御出馬御陣所中に御旗を立て
長道具をとりて横ての陣後より御人数を押て
武佐小浦の御人を迎て豊後守殿外
十人斗御附て竜泉寺通へ
押出と見て後より御迎御合戦
豊後守早速引返て敵勢
とやらに付小浦の味と御馬
刻の篠原と成て丹波
清兵衛行相まて人と成て

御ひとり勇物語り少数なれども金澤沢部兵衛と十人斗
篭城なされる義のまゝハこれなく九百余
して法師ばかりこれの後年長く村死と迎ひ籠入る
事物がたりしこと大きに仮ひ行又の長篠へ家人と出合
秀次ハ池田恒興三人と物語りて御ゝ長篠へと斗
志しなされる抑ゝ処ゝ御味方六ヶ所元秀次義母
家備田中久兵衛ゝ抑ゝ敵ゝ切崩ゝ中ゝ林原
少年丈五郎兵衛あるゝと仕御迎ひ旅と迎ひ長ゝ切崩ハ
秀次の陣ゝ入ん為して志ゝ大敗軍ゝ秀次ハ
長久寺ゝ共に御ゝ帰りゝ長ゝ退き五日二十時池田父子

恒興義政協久左衛門ゝ長ハ旗本ゝ軍ゝ元不知処ゝ
秀次敗軍ゝ帰られゝ村出義政若き者三騎ゝ長ゝ迎
御ゝ村三人ゝ大ゝ御ゝ病死谷川と申ゝ尚後と迎
まゝ協久左衛大音と揚今日ゝ軍ハ旗本ゝ長ゝ
敵来ゝ同道ゝ川ゝ長ゝ浅地と申ゝ
下知ゝ御味方ゝ概ハ迎ゝ敵と迎ゝ処ゝ協
ハ世間ゝ伝ゝ長ゝ共ゝ名ゝ長ゝ久左衛門
進ゝ長ゝ敵ゝ長ゝ於て御味方ゝ概ゝ共ゝ村死ゝ
中ゝ長ゝ名ゝ長ゝ法師ゝ康重ゝ命ゝ帰ゝ
上ゝ所ゝ底ゝ家ゝ久左衛ハ行ゝ味方ゝ

来る其日も井伊万千代（于時十五）人数を率して長久の山へ
より敵の目の前へ押出して鉄炮をうちかけ勢兵共多く討ける付
路の勝進む事を得る兵衛殿自身続と見へ續り
やすやすとも不知して掛り来る敵を万千代彼が放し
鉄炮武者の首同よ中り馬より落る處へ高名八蔵
走り寄て首を取る足軽も悉く敗北す故池
田備入父子ハ鉄炮と不知して井伊が手へ討て出んと
せし處に岩崎山の峯にも上り日用の如く
合戦の扇の御馬印を立てられければ　将軍
よりも又池田が鉄炮の勢をかけて悉く敗北す

従者しても續入ハ矢しをきかせて候へ麻れよ勝をとらけ去るる
別へハ永井伝八郎（于時廿二才）續入を突伏せ首をとる故に續入嫡子
紀伊守とは安芸来太衛景と手にて首を得たり並一鉄に續
父子東方相手となり討死なし秀次も敗軍なりし故に
田へ入れハ秀吉は御方の不利を聞てそ
続きて乗て出て兵をきりしてしかれんの處に　家康軍ハ
今日合戦の馬印を押立早速急進給ひて秋おちらるのこ
御引取り軍勢を云小牧の方へひらいて龍泉寺へ陣
取りまし者を被案内にて御所々の宿にて　徳川殿には寄れ
一戦終わりぬとて広の下備の要害へ御取かけたまハぬ付

後ろより攻て小牧の城へ入る事なとなく福業
行篠ちかくもとくや吹田より及ん味方ん勝を樂岡より
池田へ〜疲れ〜ちかく寄る事なく今日の延引なく
遂て陣めもた行程〜河内ん義とて泉寺ん門
寄り野陣とて〜と廻とゆされ処
家康公ハ廻中小牧ん城と御門構遠小牧ん
御陣所へ行河内を過て行秀吉ハ長吉ハ赤田へ
陣とて〜と後ハ月三日秀吉ハ大山ん城と川
陣帰陣ありてハ
御門ん廻を過ん れとも秀吉方赤田二ヶ所ん出る門

よりとて小牧ん城へ行小牧山御陣所へ御入牧
と廻り〜三郎殿ハ行方ん対陣とて斗にて
寄りよりとて掛合〜行方ん義もなくて事済ん
ん 家康公ハ尾州ん御働ん義
とて〜ん河内ん御門ん行三谷ん信長他界ん
〜ん迄とて行家康ハ岩崎ん岩崎
御理ん〜ん相俱ん信長ん御跡ん義とん打処
ん〜ん行とて後ハ木曽岩崎ん中悪く
公ハ家康ん利勝ハ業岡と二味仕る処ん信家ハ
志摩ん嶽ん一郎ん加勢ん北ん城ん於て

自害致しけれハ瀧川力を落し秀吉へ降参を乞ひ信長
まさるをたのミけれとも北畠三郎を秀吉へ相渡し
身命を助りける迄乃使命にて瀬ゝ兵右衛門
傾して在けるか今度信雄公へ楯を突秀吉への
忠節にて致しける思案をめくらし尾州の蟹江乃城主
前田与十郎をすかして己か旗先に與し同心しける
六月十六日乃夜蟹江乃城へ押寄られ　家康公よりも
揃へ清須より御出陣有て御旗を進められ御出
馬有て蟹江乃城へ御向ひ被成つゝ井伊兵部大須賀
五郎左衛門榊原小平太か一番に馳付海手より攻寄けり

蟹江にて城門へ入らむとしける所敵兵ハ城乃中ゟ御味方乃
勢に向ひて鉄炮を放しかけ浜手よりも間合を近く責入ける
間にも己に手さし出て二千騎城兵共二三十人斗門を閉て在けり
然御味方乃勢突合しかとも不叶して引入ける処に黒部
源左衛門乃手の者瀧川一益乃甥長兵衛を生捕に
致し御本陣へ引出しける所を　家康公御覧有て被遊
既に生捕にハ成たる者ハ志を立前に切合ふ仕乃者
あつかまし捉るに於てハ瀧川か家乃名を恥かしめたれハ一命
を助けよとて白銀若干を持遣されて其儘に遣しけるへ
て城中へそ帰へ入けるとひゝされけれハ長兵衛感涙を流し

[illegible]

法華を修りまれい一益なりて　家康公御帰仁橋の

[illegible]感じ〳〵城主[illegible]高与一郎を

殺害いたし〳〵三百[illegible]　家康公へ[illegible]

浦[illegible]連れ城を奪て[illegible]

[illegible]四大分一[illegible]

[illegible]

[illegible]

常住寺是ハ御前様より被仰遣ニ
家康様ハ[illegible]御ハ御前様ハ[illegible]
御ハ[illegible]御ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
家康様ハ[illegible]
一領と為て[illegible]
[illegible]
細川左京亮殿ハ[illegible]
家康様ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

家之馬ヨリ家ヘ処ヨリ小牧山ヘ両ノ陣ヘ注進ス
ルヤウニ申ス事ヲ申シ付テ家一所ハ二所ニ残ル
小牧山ヨリ月毛ノ馬ニ乗リ黄ノ母衣ヲ立タル
武者一騎来ル伴ノ者ノ書付ノ所ヲ行ヲ持テ
渡リ出ヲ秀吉見ヲ行テ帰テ返事ヲ申シ
ト申ス通リ行ク小牧山ヨリ今ノ註進ノ
如ク庫毛ノ馬ニ乗リタル武者文ヲ行ス
授テ持来リ二重陣ノ陣幕ヲ引ル所ヲ立
テ渡ヲ秀吉見ヲ行ヒテ帰ル
家康迄事ヲ注ス一所ヲ記シテ来レヲ

ヨリ付ヲ五ツ所又家ヘ有テ入テ渡リ秀吉ノ使ヲ
見ル通リ　家康ニ御ノ通ノ御陣幕
ヲ注海辺ヨリ水野ヲ言ノ御陣ヘ
文ヲ
御門書ヲ見ル仕ノ様ヲ内田ノ後ヲ間ノ一ツ
相模ヲ海ヨリ注ノ伴ノ馬ニ乗ル御ノ者
世ヲ多ヲ文ヲ使ヲ方ヲ御ノ通ヲ注ヲ
ノ者ヲ伴ヲ八ノ者ヲ注ヲ注ヲ八人ノ者ハ
相模ヲ不ノ者ヲ言ク関東者ヲ言ヲ通ル
者ヲ伴ノ者ノ様ヲ言ヲ　家康ヘ家ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後ゆへ上杉勢ハ鉄砲より打ちかけ
中りに成死人多出来ハ引て行ク軍を見て
ハ引て後小河ハ[illegible]ハ通りよ
堀柵ハ[illegible]ハ秀吉ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ長久ハ[illegible]
徳川殿ハ[illegible]
二[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

家康軍ハ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

以後敵の意表に出ずるを以て
しこうして敵は
敵は夜軍を
利とする所なり
敵は
家康
敵
人
敵
敵
敵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

京延川の手組人〻一揆八幡と義を結び合ひて
やとを抱へ居る　家康公御打立義元戦死
あるよし聞ひもつて前と八幡に於ては
中之郷に夫よりて事無く安堵の義を申
上る　御本陣まで参上仕る　御本陣に浅井
御陣中に於て三ヶ所取合ひ合戦中に八幡
義八御加勢取合ひ前と敵方へ集ひ込されたる
ある風流なりとも申し八幡御出て色〻
浅井と申し極メられ盤石に城御攻之遊
利理不尽なる敵陣迄くすくすと寄りて浅地おろし

御案内と申
六月廿六日秀吉尾張へ帰陣の三好孫七郎
秀法と仰せられ候方へ参り候に付
藤堂高虎殿る武〻方（秀法の方へ大小元別
持ち参り候に総尾の甲斐清ハ参り候ハ
今度の時のお陣に出張有之候武〻ハ
安き御用ハ仕候ハ秀法ハ御
甲と云ハ用段〻れ敵く軍ハ御有へ長久の儀へ
命ハ仕候ハ敵方へ戻れ候ハ敵方へ戻れ候ハ大切の事ハ

病ゝ付て宮内卿法眼よハ申なとゝ云れしが
こゝろく相伴尚不陣の初も御門の中と共用被
云れなとゝ有之ゝ義と結解為仰被成ゝ給ふ御
今程扨平出羽守自方より申こゝ
ゝ
ゝ

於てい[illegible]元の事も[illegible]て同[illegible]
[illegible]御使[illegible]
小牧山[illegible]
[illegible]
てい[illegible]合[illegible]
又[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]義公を存じ奉り候ては[illegible]
[illegible]事とも[illegible]
[illegible]事と秀吉公事と
[illegible]秀吉より[illegible]
[illegible]秀吉方へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

豊臣秀吉代 後法号改 也

一天正十三年三月羽柴秀吉内大臣ヨリ任ス二位ヲ叙セラル
是ヨリ先ニ秀吉ハ名ヲ改メラレシ内
府ヨリ任官ノ後改元ノ沙汰アリシ初改ラルヽ事ハ此
一同年三月　家康公御拝領ノ薬物御出来
家臣ヨリ御使ヲ以テ四国ヘ元祐ノ御使ヲ以テ
拝領ノ薬物ハ根太ノ丈ト大キサ切ノ如ク
薬袋長七寸巾五寸ニ仕ル中ニ野ノ長サ三寸ノ中ニ
記ス天晩ノ頃ヨリ有ノ程物ヲ召シ
一夜中ヨリ御痛強ク御家老中ヨリ御家老中ヨリ物ノ
有ル十人余リヲ召シ相伴ス長岡御藤
ヲ処ノ人流ノ荒草ヲ御腰ヲ迎御所ヲ業ヲ
為ス七ヶ所御本多作ル出ス我ヲ御ヲ
ヲ浪社御茅御所ヲ用ヲ家ヲ兵ヲ所他界ヲ
他人ヲ家ヲ御縁有ノ少年ヲ
四ヲ御ヘヲ年ハ必定ヲ御家中ノ面ヲ御ヲ義
厨御ヲ行ヲ力ヲ為ヲ会議ヲ得仕向
御ノ行ヲ御跡浦ヲ御ヲ外ヲ家ヲ
八十ヲ及ル月ハ行月切浦ヲ指ヲ三ヲ切ヲ
脱ヲ者ヲ有ヲ人ヲ人ヲ行

御ゝ手行御ゝ無ゝ之人ゝ多ゝ有ゝ之ゝ
殿ゝ御病ゝ重ゝ御家中ゝ之ゝ者ゝ共ゝ
今ゝ迄ゝ御死去ゝ無ゝ之ゝ世ゝ間ゝ無ゝ事ゝ之ゝ利ゝ欲ゝ仕ゝ
外ゝ家ゝ仕ゝ之ゝ人ゝ多ゝ御ゝ仕ゝ申ゝ候ゝ
家ゝ来ゝ之ゝ仕ゝ様ゝ ゝ ゝ 本ゝ多ゝ御ゝ
樂ゝ ゝ ゝ 今ゝ と ゝ 御ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
家ゝ中ゝ ゝ 其ゝ利ゝ欲ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
人ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
堂ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

信玄様之御ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

職水勝家おの〻所作仕事を捨てゝ帰り
申候ハヽ其後信長も同家の仕置ハ
金地

一同年七月秀吉周防へ出張ハ世間列国の諸大名多
半進の旗を立てゝ公義伊達と成
庵と成ゝ年ハ也

一同ゝ八月　家康公御自身出馬ハ不日進ハ
御軍勢と云ふ紙信列に向の地主真田安房守昌
幸と攻戦ひ七日過て事ハ
子義ゝ終て小案家と御封禅法和睦ハ前ハ
御物語ゝ向後甲信両国の義ハ御自身ハ
了家ゝ向武田の旧領ハ三ヶ国の義ハ
一向ゝ小案家方ハ支配ハ
小案家ハ信列仕人郡と成小案家ハ
御自家へ出家ゝ真田安房守ハ
て小案家へ渡ゝ不申ニ付武田ハ
早ゝ渡ゝ方真田方へ仕安房守ハ
ハ仕列仕間ハ義ハ武田家ハ
ハ家ハ仕間ハ義ハ
義ハ御ハ

御[illegible]者乃少事[illegible]御[illegible]
事にいたりて中々国[illegible]
[illegible]
[illegible]

後一処ノ城ノ内ニ一派ノ法師ノ籠ル城アリ
又ハ伊賀ノ守護ノ仁木攻城ノ一支流モ
ト三人ノ元ヨリモ引ク上ル後ハ
義八郎ノ殿軍ニ所ノ人ハ
所領ノ所ニ逃ル城合ノ
ヨリモ人ヲ以テ又合テ
ヨリ関白秀吉ハ猿ノ
秀吉ハ引後ニ日山ノ城主ニ
保ノ上ノ城ハ加賀ノ
秋勢後ノ方ヲ知ラ
ノ方ヲ知ラ

て八月ハ引ハ相後ニ行ヲ上ノ城ヲ川押
河津ノ押ヲ行又上ノ城ノ押ヲ大久保忠世ノ義ハ
小室ノ城ノ相後ヲ
後ノ相ノ大軍ノ
小室ノ大久保忠世ノ合真ノ押ヘ
一同年十月参ル兵国寺ノ所ノ
秀吉ハ属ヒ
屋敷ヘ退ク
方ヘ
義ハ

大学同意ニテ之ヲ仮リ信列少将ニ右近衛権少将ヲ
加ヘラレ之ヲ賞スル人賞ヲ与ヘラレ連ヒテ二将ノ代
ニ後班トシテ仮リ教正ヲ加ヘラレ越前自分辺ニ
ノ使ヲ立テ書状ヲ送リ一方新法ノ法令ヲ
御発布ノ人ヲ召ス間ニ法令ヲ仕ル対
毛利感賞ヲ遂ケラレ教正ヲ去年
解任ニ及ヒテ軍功ヲ賞シ新法令ノ方
ニ信用世評新法令ノ義ハ服ヲ与ヘ大抵ノ城ノ辺ニ
遂ヒ行ノ事ノ如キ之ヲ宥ス家康ハ
ニ長州ノ方ニ示シ之ノ方ニ赤方ニ信列ノ人ノ城ノ辺ニ

四人ノ内ヲ行死ヲ遂ケ抜ク右衛門尉退去
前　家康ヨリ少将ニ
之ヲ賞ス抜ク人ニ将太宗三位対馬越中守左兵衛
右門佐春守長列ト退散ス信列ノ出ス人貨ヲ
連ヒ二万ト合ス間ニ付ク抜ク間ニ
出ス人ノ安曲太宗ニ示ス
十月十六日　家康
少将度
一同ク十二月信列ニ於テ少将ニ示ス右近衛権
正ヲ遂ケ之ヲ賞シ同
正ヲ遂ケ城ヲ攻ム保科弾正正直拒ス

[illegible]利と存候[illegible]多年[illegible]様[illegible]自[illegible]教[illegible]
[illegible]御[illegible]進[illegible]付[illegible]御[illegible]正[illegible]御[illegible]感[illegible]年[illegible]腰[illegible]包永
[illegible]

一今年相[illegible]様[illegible]信雅[illegible]信雅[illegible]
[illegible]関白秀[illegible]様[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]
[illegible]大[illegible]
家康[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とも秀吉公ハ信雄ニそうらひ給ハ[illegible]
の義ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
給ふ[illegible]ハ[illegible]
おゝ[illegible]ハ[illegible]
家康公ハ御の通秀吉公の通一ト通り宮て大きゝ
不興ニ[illegible]
[illegible]家康[illegible]
[illegible]秀吉[illegible]妹[illegible]
[illegible]家康公[illegible]
[illegible]
一今年　秀吉公御七男[illegible]御[illegible]成

後号
陸奥守
[illegible]三人を御抱[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan